

みどりの杜俳句会



網焼餅生正油つけて極旨し	飯野はつ志
鉢植糸のパンジー色の混り合ふ	鈴木 啓子
冬の鳥やぶの中より低く飛ぶ	木村 弘子
来てみれば草枯多し杜の畑	梅沢きくえ
枯木立隙間に空の青さあり	田村 好子
新春太鼓幼ら打ちて涙せり	梅沢 時江
子らの打つ新春太鼓リズム良し	吉田 愛子
ひ孫二才年賀状まだ字とならず	西 ツル
藪柑子松の根元に増えてをり	落合 七郎
初詣列なす人に風強し	関口 侑子
日射し中楮皮剥ぐ湯気白し	野口利江子
冬ぬくしやぶ中に猫丸くなる	岡部富美子
冬の花わらび芝中伸び始む	鯨井 和枝
檜櫟どんぐり転げ森の道	土屋 厚子
大黒のおどけ舞ひけり追儼祭	初雁 功子
大寒の目高の動き止まりがち	小宮 勉
鉄塔に人見降して寒鳥	山田 美子



人権シリーズ

「少子化時代に向けての子どもの人権とは」

(411)

国立社会保障・人口問題研究所の将来の人口推計では東京一極集中は今後も続くとのこと。政治、経済、教育機関等が集中し、ヒト、モノ、カネが大きく動く大都会。大都会だからこそ雇用や生き方もあり、一概に一極集中の良し悪しを論じられない面もあります。地方創生の視点からは、コロナ禍で地方移住が増加するのではという期待もありましたが今では薄れてきています。花の東京は今後も日本中心であり続けるのか・・・

出生数がピーク時の三分の一以下となった近年、子どもへの厚い支援が国をはじめ多くの自治体で展開されています。全く議論の余地のないことですが、その子たちの将来に考えを巡らすと、高齢者を支える負担が相当重くなることやインフラの維持管理の困難さなどが予測されています。

一九九四年に日本が批准した「子どもの権利条約」では、差別の禁止、子どもの最善の利益、生命、生存及び発達に対する権利、子どもの意見の尊重の四つを基本的な考えとしています。

今を生き将来へ影響を及ぼす社会を築いている私たち大人は、やがて次世代に支えられる対象となるわけで、後はお任せしますという無責任なことではできません。多くの課題をすべて解決することはできませんが、私たち大人の責務は「未来を切り拓ける人材の育成」や「子ども達の意見や考えを取り入れ希望をもてる世の中を創り上げていくこと」です。そのことが子ども達の人権を尊重することにつながるのではないのでしょうか。

学校教育指導員 吉田 明弘

アートの世界

寄居町の「花」で親しまれているカタクリ。鉢形城跡の周辺にも毎年可憐に咲くカタクリの里があります。二葉でない花は咲きません。さわやかな風に吹かれ、その姿は何ともこころ穏やかな春の訪れを感じさせてくれます。「里山のはる」は、花の競演も表現したく版画で制作しました。春の一日、是非皆さんもお出かけになつてはいかがでしょう。



「里山のはる」  
作者 版画を楽しむ会  
高野 浩子さん(安戸)